



山神 一益 さん (53)

まくひとしごと 枕崎 × 人 × 仕事 No.1

やまがみするうこうぼう
山神益郎工房 / 中央町

「枕崎 × 人 × 仕事」では、枕崎にあるさまざまな仕事と、その仕事に携わる人を紹介します。初回の今月は、「山神益郎工房」取材しました。



本市で社寺工芸製作を行っている山神一益さん。親方(父)と弟の3人で山神益郎工房を営み、社寺建築絵彫物、寺院用仏具、神輿、看板、障子、建具など、幅広く製作しています。過去には、鹿児島島の「おきおんさあ」祭りの阿吶山車や、霧島神宮の神楽殿の製作にも携わりました。本市では唯一の職業で、全国的にもこの仕事に携わる人は減ってきているといえます。山神さんは、製作の過程を写真や動画に収め、SNS等を利用して情報発信しています。「昔は秘密にするものでしたが、今の時代は自分で発信していかないと仕事は来ない」と話します。その甲斐もあって、今では北海道から注文が来ることもあるそうです。

幼い頃に親方(父)が市役所の神輿を製作し、市の職員が神輿を担いでいる姿を見て「神輿を造るのもいいな」と思い、この仕事に興味を持ちました。枕崎高校を卒業後、一旦、東京のお茶販売会社に就職しますが、休日には、あちこちの神輿造りを見て回るなど、頭の中には神輿製作がありました。東京の会社に約5年間勤めた後、24歳の時に枕崎へ戻り、親方(父)の下に弟子入りします。以来、この道一筋で今年で30年目を迎えますが、「親方(父)に比べると、自分はまだまだ新人です」と笑顔を見せます。

神輿や仏壇には、見えないところに「作人書」というものがあります。作人書とは、製作をした人の名前と日付を入れるもので、いわばサインのようなものです。修理で神輿などを預かり、分解した時、作人書が姿を現します。「同じ職人として、修理を行う中で、作人書に書かれている人がその当時、どのようなことを考えて造っていたか分かるんです」と話す山神さん。「何十年後かに自分の造ったものを誰かが修理する時、作人書を見て、この人は良い仕事をしているなと思うてもらえたら本望です」と話します。

抽象絵画の先駆者 ~山口長男展

1956年にベネチアビエンナーレに日本代表として出品するなど、日本の抽象絵画の先駆者として国際的に活躍した山口長男の展覧会を開催します。南浜館収蔵品の中から、油彩画、水彩画作品の他、貴重な陶器の絵付作品を展示します。

- 期間 4月25日(土)~5月29日(金)
- 場所 南浜館(第2展示場、市民ギャラリー)
- 観覧料 無料

しゃらくたてがみ写真展

枕崎市文化協会に所属する写真グループ「しゃらくたて

がみ」による写真展を開催します。会期中は前半、後半と2部構成で展示しますので、ぜひご覧ください。

- 会期 4月28日(火)~5月29日(金)

「朋郎コンサート」の中止

4月28日(火)に予定していました和太鼓奏者の内藤哲郎(元鼓童)氏と篠笛奏者の武田朋子氏による「朋郎コンサート」は、中止となりました。

第1回「風のコンサート」9月6日に延期

5月24日(日)に予定していました第1回「風のコンサート」(本市在住ソプラノ歌手・白澤玲子氏ほか出演)は、9月6日(日)に延期されました。

皆様のご理解を、よろしくお願いいたします。

- 会場 南浜館(第1展示場)
- 観覧料 無料
- ※当初の会期(3月24日~4月19日)と変更になっています。ご了承ください。



今月の担当は 中崎隊員 です!



こんにちは。新しい年度になり、就職や進学等で新しい生活が始まる方もいらっしゃいますね。私も4月で地域おこし協力隊2年目に突入です。今後ともよろしくお祈りします。

地域おこし協力隊 活動レポート

協力隊が行く!

鹿児島に来て

4年前の春に私は、鹿児島県民になりました。4年前まで東京都に住んでおり、他の地域に住んだことはありませんでした。周りの人たちは心配していましたが、私自身は新しい世界で生活できることが嬉しく思いました。あれから4年、子どもたちは枕崎に来て、山や海に身近に触れ合うことができ、私は枕崎の地名と地図が分かるようになりました。甘い醤油や腹皮など、枕崎に馴染み深い食文化は、家庭の味になりつつあります。色々な文化や習慣に触れることは多くの学びにつながりますし、差異を感じることで、各々の文化の良さがわかる気がしました。

地域おこし協力隊2年目

地域おこし協力隊2年目になります。任期は最長で3年なので、3分の1が終わったことになっています。

これからの活動として、遊休農地を活用して、ハーブとスパイスを栽培しようという計画しています。あまり馴染みのない作物です。しかしながら、日本にも昔から薬草や香辛料を使用した料理は多く存在します。注目すべき点は、ハーブやスパイスを使用することで、塩分の取りすぎを抑制できたり、臭みを取って食べやす

くできる点です。これらの利点を活用して、既存の枕崎の産物とコラボレーションさせ、新しい特産品をつくれたらいいな、と思いついて栽培を考えました。枕崎は温暖な気候です。この温暖な気候を生かし、東南アジアで食べられているレモンガラスやパクチーといった野菜、パクチーの実はコリアンダーなどもハーブの種類ですので、栽培する予定です。それに先立ち、苗づくりから始めるため、今回は竹でビニールハウスを建てることになりました。色々お手伝いいたただいて、私サイズの可愛らしい!?ビニールハウスが完成しました。魂を入れるべく、今はせっせと種を植える毎日です。さまざまな種類の作物を育てる研究所の様なチャレンジをしています。

また、枕崎の元気な女性起業家さん達と、枕崎ブランドを立ち上げるべく、今、企画を考えています。枕崎の女性はとても活発で、枕崎の産物を使用し商品化にチャレンジしています。私も自分が育てたハーブやスパイスで参加できればと思います。共にアイデアを出しています。1年目は多くのことを学び取り、2年目は実施に向けた年になります。皆さん、今後ともよろしくお祈りします。

市長

コラム

vol.13

ていねいな暮らし(その2)

こんにちは。前田祝成です。

私は、「便利」が増えて、逆に少なくなった「面倒くさい」の先にあるものは、とても価値のあるものなのかもしれない、と先月のコラムで書きました。

例えば、ペットボトルのお茶を飲むのも便利でいいけど、急須でていねいに淹れたお茶を飲む。例えば、インスタントのおだしで味噌汁を作るのも便利かもしれないけど、削った鰹節でていねいにおだしをとる。枕崎には、ていねいな価値がたくさんあります。

私はシャツのアイロンがけや靴磨きを自分でやるのですが、これも「面倒くさい」の先にある「ていねいな暮らし」の価値だと思っています。もちろん、物持ちも良くなります。革靴など10年選手が当たり前になってきます。

お茶や鰹節のことを書きましたが、この「ていねいな価値」こそ日本人はしっかりお金を払うことをしていくべきだと思います。これまで私たちは、「便利」にお金を払い過ぎてきた気がします。便利な商品は消費する時間が短かったり、使うための労力が削減されたりしている分、この「便利」に払うお金は、できるだけ安く抑えたい。なるのが人の心理ではないかと思えます。反面、「ていねい」にはその価値に見合ったお金を払う。日本のデフレ経済は、こういうところからも解消できないかと感じています。枕崎から日本のデフレ経済を救っていく。枕崎の「ていねい」な価値を発信して、日本の消費価値を変えよう。そんな心意気も必要ではないかと思えます。

今、世界的に新型コロナウイルスの感染が拡大していますが、この感染防止のための基本的な予防策である「手洗い」や「うがい」、これも「ていねいな暮らし」に通じるものだと思います。まさに、今こそ「ていねいな暮らし」が求められているのだと思います。

